

下道議員

勝山市の雪おろし事情について

**問** 屋根の雪おろしの最中、高齢者が落ちて亡くなる事故が市内で相次いだ。少子高齢化の進行を踏まえ、屋根の雪おろしに市外・県外からのボランティアを集めて組織化することを考えてはどうか。新潟県で「越後雪かき道場」というNPOが命綱の講習書を出したり、除雪の安全教育と実践講習会をしたりして、一人暮らしの老人宅などの雪おろしをしている。参考にできるのではないか。

**答** 過疎化、空洞化により、地域に人手が足りないときや、屋根雪おろしの人手が一時に必要なときなど、ボランティアに頼ることは有効なことと考える。しかし、そのボランティアを活用する仕組み作りが非常に困難であると思われる。除雪ボランティアについても、勝山市総合克雪・利雪・親雪計画で先進事例なども参考にしながら、地域での共助や除雪費用の補助と合わせて研究していきたい。

その他の質問  
勝山市の防災対策について

「介護マーク」について

**問** 在宅介護中の男性から、認知症の奥様を連れて外出した際、女性トイレに入ったら不審な目で見られたとか、女性用の下着を買つのに抵抗があるという話を聞く。他市では介護する人の経験から、偏見や誤解を受けることを防止する「介護マーク」を配布しているところがある。勝山市でも取り入れることができないか伺う。

**答** 介護マークの普及については国でも推進の方向にあるので、市でも介護者のニーズを把握しながら検討していきたい。また、市民の介護予防や認知症に関する理解を深めるために、地域いきいきサポートー養成を初めとしたあらゆる機会ですべて普及啓発に取り組んでいく。



北沢議員

雪害対策について

**問** 平成24年10月後半からの大雪で、除雪・排雪作業が大変な冬だった。屋根雪をおろし、その雪を排雪したくても水路に水が来ないと嘆いている市民もいた。少ない水を有効に活用するため水路整備、水路の改良工事を総合的に見直し、計画的に実施する考えはないか伺う。

**答** これまで水路の改良や流雪溝の整備を進めてきたが、近年はその水量の確保が求められている。区内での流雪のための水の切り回しは地元で対応していただいているが、少ない水の有効活用については、一度使った水を下流から上流へポンプ設備で循環させるシステムを国庫補助事業により設置した事例もある。この循環システムはどこにでも設置できるものではないが、必要な水量が確保できる所で、かつ水利使用に支障がない場合、関連する区とも協議する中で検討していきたい。  
流雪溝の整備や水路改良については地元区と協議を十分に進め、計画的に改善を進めていく。

老人休養ホーム平泉寺荘の存続について

**問** 勝山市で唯一の高齢者保養施設である平泉寺荘は、介護予防にも欠かせない存在である。各種団体の方が集い、親睦会の場として、また、健康増進、レクリエーションの場として重要な役割を担っており、欠かせない施設である。

**答** この平泉寺荘を改装して、今後継続運営ができないか伺う。

**答** 市では、用地関係の状況変化もかんがみ、引き続き市内で平泉寺荘の在り方検討委員会を開催しており、その検討内容については市議会に報告し、積極的な議論をいただく中で方向性を見出したいと考えている。

